２０２６年１１月１５日（日）

日本基督教団　大宮教会

大宮教会ビジョン
「すべての人を喜びあふれる神の家族へ」
- 聖書の御言葉に生きる共同体を造り上げる -
（マタイによる福音書28：19～20）

# 降誕前節第６主日

**朝第１礼拝** 9:00～10:00
**朝第２礼拝** 10:30～11:40

〈神の招き〉
前　　奏　ただ主に依り頼む者は　バッハ
招きの詞　詩編６７：２～８
交読詩編　７７：１～２１
讃　美　歌　３
〈神の言葉〉
聖　　書　イザヤ書５３：３～５
（旧約　聖書協会共同訳1134頁）
フィリピの信徒への手紙２：６～１１
（新約　聖書協会共同訳355頁）
祈　　祷
幼児祝福
讃　美　歌　５３
信仰告白　日本基督教団信仰告白
説　　教　「キリストによる救い」（信仰告白③）
熊江秀一牧師
祈　　祷
黙　　想
讃　美　歌　５２２
〈神への応答〉
使徒信条
献　　金
主の祈り
宣教報告②
頌　　栄　２８
派遣と祝福
後　　奏　私は主に望みを置く　バッハ
宣教報告①

**夕　礼　拝** 18:00～19:00

〈神の招き〉
前　　奏　神のなさることは恩恵のわざ　クレプス
招きの詞　詩編６７：２～８
交読詩編　７７：１～２１
讃　美　歌　１１７
〈神の言葉〉
聖　　書　詩編１７：１～１５
（旧約　聖書協会共同訳831頁）
ルカによる福音書１１：１～１３
（新約　聖書協会共同訳126頁）
祈　　祷
讃　美　歌　２２４
説　　教　「祈るときには」
佐藤潤伝道師
祈　　祷
黙　　想
讃　美　歌　４８１
〈神への応答〉
使徒信条
献　　金
主の祈り
宣教報告
頌　　栄　２６
派遣と祝福
後　　奏　今我が魂は主をほめたたえる　パッヘルベル

**今週の御言葉**

へりくだって、死に至るまでそれも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げあらゆる名にまさる名をお与えになりました。
（フィリピの信徒への手紙２：８～９）

**次週の礼拝**（11月22日）

① ９：００、② １０：３０
説教「平和、愛、恵み」
佐藤潤伝道師
民数記６：２２～２７
エフェソの信徒への手紙６：２１～２４
交読詩編１８：４７～５１
讃美歌１２７、２０６、４０３、２６

サテライトチャーチ植竹礼拝・夕礼拝
１０：３０、夕 １８：００
説教「主イエスは復活・命」熊江秀一牧師
イザヤ書２６：１６～１９、
ヨハネによる福音書１１：１７～２７
交読詩編１８：４７～５１
讃美歌4、５２９、３３５、２８

ワーシップ（賛美礼拝）14：00～15：00
説教：「救いが近づいている」 熊江秀一牧師　ローマの信徒への手紙13:11～14
賛美：ハヌカ、みんな賛美、ありのままソング、主イエス神の愛、主イエスと歩く道、主の祈り、
主は良いお方、死を打ち破り

■<u>今週の祈祷課題</u>■　独り祈る時、共に祈る時にお覚えください。

1．キリストの体なる教会が豊かに形成される為に

2．熊本地震と東日本大震災と能登半島地震の被災者の為に　3．教会の子どもたちの為に

4．教会学校の為に　5．収穫感謝日と謝恩日の為に　6．関連幼稚園（大宮・植竹・白百合）の為に

7．日本基督教団の宣教の為に　8．世界にキリストの平和があるように　9．病気の兄姉の為に

**＊関東教区お祈りカレンダー**　大宮教会　　東大宮教会

◇先週の説教より　神の言葉である聖書（信仰告白②）ルカによる福音書24章25～27節、出エジプト記34章29～35節　　熊江秀一牧師

プロテスタント教会 30 余派が合同した日本基督教団は、同じ信仰告白をする一つの教会である。しかも使徒信条をも告白する公同教会である。

この信仰告白には「聖書」「神」「救い」「教会」についてのプロテスタント教会の信仰が凝縮されている。

まず「聖書」を「神の言葉」と告白する。「神の言葉」は受肉してキリストとなった。聖書はキリストを証しする。

エマオ途上で復活の主が二人の弟子と出会った時、主ご自身が、聖書全体を解き明かし、聖書がキリストと、その苦難と栄光について書かれていることを語った。その時、二人の目は開け、心は燃えた。ここに主日礼拝の原点がある。

この聖書の著者は聖霊である。ゆえに聖書を正しく解釈できるのは聖霊である。

モーセを通して、民が律法を受けた時、その顔に覆いをかけた。

私たちも聖書に自分の思いという覆いをかけて、主のお姿が見えなくなる。それを取り除くのは聖霊である。聖霊によって聖書を読む時、主のお姿が明らかになり、「福音の真理」が示される。それは主の十字架と復活による福音の真理である。

「聖書は聖霊によりて、神につき、救いにつきて、まったき知識を我らに与える神の言葉」。知識は知的なことだけを意味しない。聖書を聖霊の導きで読む時、私たちは神と結びつき、キリストと一体化していく。聖書こそ「教会のよるべき唯一の正典」。私たちの「信仰と生活との誤りなき規範」である。

聖書を神の言葉として聖霊に導かれつつ読み、豊かな恵みをいただこう。聖書によってキリストと出会い、キリストと一つとなって、永遠の命をいただこう。日々聖書を読み、信仰と生活の導きをいただこう。

私たちは信仰告白共同体として、聖書に養われて信仰の旅を歩む群れである。

＊礼拝中、起立がご無理な方は、着席のままどうぞ。＊◦は祈祷当番の方。＊①は朝第1礼拝、②は朝第2礼拝、夕は夕礼拝。